

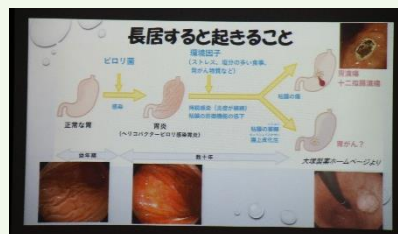
第 21 回 公開講座レポート

8月19日土曜日、南多摩病院公開講座が行われました。テーマは「ピロリ菌」についてでした。南多摩病院 消化器内科の好川 謙一先生と臨床検査技師の檜原 学さんからお話しいただきました。

ヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)は胃粘膜に生息しています。胃粘膜は、強力な酸である胃酸に覆われているため、従来は、細菌も存在できないと考えられていました。しかし、最近の研究により、胃の中でも存在できる、ピロリ菌という細菌がいることがわかりました。感染経路の詳細は未解明ではありますが、整備されていない時代の「井戸水説」が有力とされています。免疫力の弱い幼少期の感染が多く、大人になってからの感染はほとんど無いと言います。日本人の場合、年齢が高い方ほどピロリ菌に感染している率が高く、60歳代以上の方の60%以上が感染しているといわれています。



ピロリ菌に感染しているだけでは、症状などは出ませんが、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃炎の患者さんはピロリ菌に感染している方が多く、ピロリ菌が胃や十二指腸の炎症やがんの発生に関わっていると考えられています。



現在、感染しているかどうかを高い精度で診断する検査方法が普及していますので、感染していることが分かった場合は、積極的に除菌することが推奨されています。新薬の開発で除菌の精度は上がり、ピロリ菌の感染者は年々減少傾向にあるようですので、数十年後には完全に感染者がいなくなっていることも考えられると言います。

年齢に限らず、多くの方に事前検査を受けていただき早期発見と除菌対応をお奨めいたします。南多摩病院においても検査対応を行っておりますのでお気軽にご連絡ください。

南多摩病院では定期的にこのような講座を開催することで、少しでも地域の皆様のお役に立てればと考えております。

次回は11月18日(土)の14時から、南多摩病院8Fにて。テーマは「頭痛」のはなしとその検査について。是非ご参加ください！

